

\* 3年度の改善プランの検証

「知識・理解」に関しては、基礎基本の定着として、個人指導で教える時間を確保していくという授業プランにより、全体的に定着が計れているという結果となった。しかしまだ個人差が大きいため、少人数指導を中心として更に一人ひとりに向けた指導をしていく必要がある。「思考力・判断力・表現力等」に関しては、自分の意見を伝えることのできる児童の育成を行った結果、3年生以上は問題文を図や言葉で説明し、立式につなげられる児童が増えてきた。一方で、自分の考えをもてなかったり、立式に結び付けることができない児童もいる。今後も学び合う時間を授業の中で意図的に確保し、深い学びに繋げていけるようにしていく。また、低学年のうちから、言語力の育成を図りながら、算数の用語を使って説明できるように指導をしていく。「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、全体的に計算には意欲的に取り組むものの、時刻や量などの学習には消極的になる児童が多い。具体物を活用したり、具体的な場面を設定したりすることで、児童が意欲的に考え、学習を定着できるようにしていきたい。また、高学年になると苦手意識により、取り組む前に諦めてしまう児童も多い。少人数指導を生かして、そういった児童へのピンポイントな働きかけを今後も続けていきたい。

\* 4年度の改善プラン

観点	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
算数 知識・技能	一年	・10までの足し算・引き算の計算については、概ね正しくできる。しかし、計算に時間がかかる児童もいる。	・指を使わず、念頭で計算できるようにすること。	・ブロック操作での足し算・引き算の仕組みを視覚的につかませ、念頭で計算できるまでブロック操作を繰り返し指導していく。 ・既習事項の復習をする時間を設け知識の定着を図る。生活の中でも意識して使う場面を増やしていく。
	二年	・繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算の計算や筆算の仕方は理解に個人差がある。1年生の既習事項である12-4のような計算が暗算でできないことが、筆算の学習に支障を来している。 ・長さの学習では、ものさしのcm、mmの目盛り、水のかさの学習では、l、dLマスの目盛りは捉えられても、それらの単位関係の理解が不十分な児童もいる。また、時刻と時間や、時間の経過の理解が難しい児童がいる。	・繰り下がりのある筆算では、位の理解を深めること。 ・L、dL、mLの単位関係の理解を深めること。 ・時刻と時間の理解(○分前・○分後の時刻)を深めること。	・1年生の繰り下がりや繰り上がりの計算の復習を繰り返し行う必要がある。 ・単位関係については、デジタル教科書などを用いて視覚的に理解できるようにし、実際に体験する中で量感を育てていく必要がある。 ・時刻と時間の学習では、年間を通し、学校生活の日常の場面を通じて、指導していく。
	三年	・学年全体としてあまりのあるわり算はよくできている。九九と繰り下がりのひき算がしっかりと覚えている児童が多いことが分かった。 ・時こくと時間の求め方で、時間の単位を直す問題や時間を求める問題を間違える児童が多かった。 ・等分除、包含除の意味理解が不十分な児童がいる。	・時刻と時間の理解を深め、時間の単位を直せるようになること。 ・等分除の意味や包含除の意味を理解すること。	・日常会話の中でも時刻と時間を区別して使って意識させる。 ・時計を使って1時間が60分であること、1分が60秒であることを確認する。 ・授業中に問題作りをする時間を確保すること。
	四年	・学年全体としてよくできている。数直線上の小数を読み取ったり、はかりの重さを読み取ったりする学習、2けた÷1けたの学習は正答率が9割を超えている。 ・クラスや個人で正答率を見ると、小数の計算など問題によって差がある。 ・解答できていない児童に個別の支援が必要である。	・小数と数の相対的な大きさ(例:1.23は0.01が123集まった数)について理解を深めること。	・小数点が入っても基礎基本である繰り上がり、繰り下がりがきちんとできるように、ドリルパークなどを用いて、朝学習や家庭学習で多くの問題に取り組みさせる。 ・位取りをきちんと覚えてもらえるような工夫をする。小数点をそろえとか、空いている位には0があると考えることも必要である。
	五年	・概ねできている。千の位までの概数の表し方や概数の範囲を理解できていない児童がいる。 ・わり算やかけ算の筆算の計算順序を間違えたり、計算ミスをする児童が多い。	・概数の復習や乗法・除法の習熟を深めること。	・ドリルパークなどを用いて、朝学習や家庭学習で多くの問題に取り組みさせる。
	六年	・算数用語を適切に使ったり、既習事項を使って考えたり的確に説明したりすることができない児童がいる。	・算数用語や既習事項を使って考えたり的確に説明したりすること。	・言葉を繰り返し指導する。用語を活用することが定着するようにする。 ・友達の考えを説明させたり、複数の児童に考え方を説明させたりする時間を設ける。
	甲	一年	・文章問題を読んで場面の状況をつかみ、それを立式に結び付けられない児童がいる。特に引き算になる文章問題を読んで、立式のイメージをもつことができない。	・演算決定のための文章の読解力を付けること。特に引き算では、どちらがひかれる数、ひく数なのかとらえられるようになること。
二年		・文章問題の文意を捉えて式を立てたり、正しく解決したりする力について個人差がある。算数の技能的な点よりも、問題の問いかけを理解できていない児童が見受けられる。 ・時間や量の概念を理解するのが難しい児童が多い。	・既習事項を生かして問題解決ができるようになること。 ・演算決定のための文章の読解力を付けること。 ・大体の量や、時間の流れなどを理解すること。	・特に文章題では、分かっているところ、聞かれているところに下線を引いたり、解決の仕方を絵や図に描き表したりする活動を取り入れて、指導していく。 ・生活の中で量や時間について考える時間を設けていく必要がある。
三年		・問題文を読む力はついたため、立式するときにはしっかりと把握できている児童が多い。 ・図で説明しようとする児童が多くなっている。 ・繰り上がり、繰り下がり概ねできている児童が多い。 ・応用問題が出ると、図や数直線を用いず考えようとして不正解になる児童がいる。	・応用問題が出ると、図や数直線を用いて問題を解けるようにすること。	・基本的な学習は概ねついていると考える。しかし、ある一部にノート指導が必要な児童がいるのも事実である。図でかいたり数直線でかいたりして、ノート指導に力を入れる。

算数	心 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 等	四年	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級ともにより算の筆算では、説明をする児童が多かった。できなかった児童も説明を聞いてできるようになったり、考えるようになったりしながら授業が進められるようになった。</li> <li>グラフや表などではしっかりと理解して取り組む児童が多く見られたので、極端に出来ない児童はいなかった。</li> <li>文章問題を口を使ったかけ算の式に表したり、図に表したりする問題がおおむねできている。</li> <li>説明する場面では、ある一部の児童の意見は多いが、発言しない児童も多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えややり方を相手に説明できるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の説明を聞いて理解を深める児童も多くいることから、状況に合わせて適宜小グループによる交流活動を行う。自分の考えをもてなかった児童も、友達の説明を聞いて分かったことを発表したり、ノートにまとめ直したりするなど、表現する機会を確保する。</li> </ul>
		五年	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの数量の関係をもとの大きさの何倍になったかを考えて比べる学習や折れ線グラフを読み取ったり折れ線グラフに表すとよい場面を選ぶ学習はほとんどの児童がよくできている。</li> <li>自分で考えて、発表しようとする児童は多いが、自分の考えをもてない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもてない児童も、数直線や図を手掛かりにして、自分の考えをもち、説明できるようになることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力解決の時間を確保すると同時に小グループによる交流活動も適宜行う。自分の考えをもてない児童には、ヒントや個別に対応するほか、グループ交流での学び合いを活用させる。また、グループ交流を活かしたグループ発表を行う。その過程で友達の意見を聞き、問題の解決方法を理解させていく。友達の意見を聞いて、考えたことや思ったことなどを発表させ、振り返りを充実させる。</li> </ul>
		六年	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数の計算・五角形や八角形の内角を求める問題、混み具合を求める問題、測定値から平均を求める問題は目標値に届いている。</li> <li>算数で使う用語が定着していない。用語を使って考え方を的確に説明する機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数の用語を使いながら考えを説明すること。また、友達との意見交流を行いながら課題解決の方法を見付けること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>復習したり、新しい用語には色を変えて何度も繰り返し指導したりする。</li> <li>人の意見に耳を傾けることから始める。そのうえで、発表者の意見や自分の意見との相違などを比べさせたり、付け足したりしながら、色々な考えに触れさせていく。</li> </ul>

算数	主体的に学習に取り組む態度	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の構成や仲間づくり、数の大小、物の順序など、ブロック操作を通して意欲的に学習を進めることができた。計算にも意欲的だが、早さを気にするあまり、計算ミスが目立つ児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数についての感覚を豊かにするために、具体物や半具体物を使って取り組み、10のまとまりや10の構成を定着させること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の概念を視覚的に理解できるようにするために、ブロックや数遊びなどの活動を多く取り入れていく。また、朝学習などを活用して計算問題を繰り返し行うことで定着を図る。</li> </ul>
		二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットや具体物を用い、意欲的に学習に参加する児童が多く見られた。</li> <li>・繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算といった計算問題にも進んで取り組むことができる。</li> <li>・間違えた理由を考えずに先に進んでしまい、定着が図れていない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を操作しても、それが学習の理解に繋がらない児童がいる。知識として理解するだけでなく、実際の生活とも結び付けて考えていけるようにする必要がある。また、量感を養う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻や時間、身の回りにあるものの長さ、かさなど、日常活動の中で意識させ、学習への関心を高めていく。</li> <li>・数への概念を豊かにするために、「だいたい〜くらい」といった予想をしながら学習を行うようにする。</li> </ul>
		三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲はとてもある一方で、ノートに図で表したり、自分の考えを言葉で表したりするなど、書けない児童が目立つ。自分の考えはもっていても、友達の見聞を聞いたり、聞いて考えたりすることはなかなかできないのが現状である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図表などを用いながら粘り強く自分の考えを表現すること。</li> <li>・友達の見聞を聞いて自分の考えを広げること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的になれるように、体験を通したり、日常に則したりした授業を展開したい。</li> <li>・話し合い活動を多く取り入れて、友達の見聞を聞いたり、自分の意見を話したりする活動を算数科でも取り入れていく必要がある。</li> </ul>
		四年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアレスミスが多く見られた。正答を導くために粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。</li> <li>・表やグラフはかける児童は多いが、それを身の回りや生活の場面に生かすような児童は見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアレスミスを減らすため、皆祖をする習慣をつけること。</li> <li>・表やグラフを他の場面でも生かすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見直し・間違い直しを習慣づける。</li> <li>・課題とした小数の学習などを単元末の学習や朝学習の時間を使って復習し、理解を深めていく。</li> <li>・身の回りにあるグラフや表の良さに気付くような活動を取り入れていく必要がある。</li> </ul>
		五年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで自分の意見を発表できる子が多くいる。</li> <li>・かけ算やわり算の筆算で計算を正確にできていない児童がいる。また、立式できていても計算ミスが目立つ。粘り強く政党を導こうとする意識が弱い。</li> <li>・学習に意欲的な児童が多いが、自分の意見を発表することができない児童も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアレスミスを減らすため、皆祖をする習慣をつけること。</li> <li>・自分の考えを説明できるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算が終わった後に授業中でも検算するように進める。</li> <li>・一部の児童のみ意見が多くなり、意見があっても発表しない児童の声掛けや発表できる体制を整える。</li> </ul>
		六年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学習に取り組む児童が多い。進んで自分の意見を発表できる子も多くいる一方で、自信がもてずに消極的な児童もいる。</li> <li>・単位の書き忘れが目立つ。速く、多く問題を解くことに重きを置いている児童がいる。速く解くことはよいが、そこにミスが生じる場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアレスミスを減らすため、皆祖をする習慣をつけること。</li> <li>・発言の少ない児童の考えも広めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速く計算するだけでなく、検算するように授業中でも進める。</li> <li>・グループでの交流活動を取り入れて意見交換などができる時間を設ける。</li> </ul>